

第9回尾張旭市交通問題対策協議会

1 開催日時

平成16年2月24日（火）

開会 午前10時

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

委員：大澤一夫、大矢英樹、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、加藤桃代、
近藤重男、櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、
服部正勝、林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

4 議題等

- (1) 平成15年度第2回愛知県バス対策協議会について（報告）
- (2) 公共交通移動実態調査の集計・分析結果について
- (3) 第8回目の会議の概要について（会議録の確認）
- (4) 交通問題対策協議会の報告書（案）について
- (5) 市長への報告書提出
- (6) 平成16年度に向けて

5 会議の要旨

(1) 平成15年度第2回愛知県バス対策協議会について（報告）

2月18日（水）に行われた平成15年度第2回愛知県バス対策協議会について報告。

（報告内容）尾張旭市に関係する次の3点のことが決定されました。

- (1) 4月1日廃止申し出路線の対応について。名鉄バスの藤ヶ丘～森林公園ゴルフ場前、廃止を容認。藤ヶ丘～旭団地～藤ヶ丘の循環路線、廃止を容認。
- (2) 平成16年度公的補助申し出路線の対応。名鉄バスの藤ヶ丘～印場駅～森林公園ゴルフ場前、国庫補助対象路線として維持確保を図る。
- (3) 平成17年度公的補助申し出路線も（2）と同じ路線。引き続き公的補助を実施し、路線の維持確保を図る。

【質問】

- 確認ですが、（2）の国庫補助対象路線として維持確保を図る、という文

面と、(3)の公的補助を実施し云々という文面と、内容に何らかの含みがあるのかどうか?例えば、国庫補助は国と県の補助を前提にしているはずですが、(3)で公的補助といったのは、尾張旭市にも何らかの負担をお願いする心積もりがあるのかどうか。

- 意味合いとしては、(3)は引き続き国庫補助ということです。これはバス対策協議会のルールとして、1年前、半年前に確認するというルールがあり、その時点では統一的に公的補助という名前ですと協議され、決定時点では公的補助の中でどれで行くかということで、国庫補助となっています。

(2) 公共交通移動実態調査の集計・分析結果について

以下の資料に基づき、説明を受ける。

尾張旭市 公共交通移動実態調査 市民アンケート調査 問2集計報告

(3) 第8回目の会議の概要について（会議録の確認）

第8回の協議会会議概要の内容確認。インターネット等での会議概要公表の了承を得る。

(4) 交通問題対策協議会の報告書（案）について

平成16年1月20日（火）の協議会で出された意見を取り入れて、報告書の修正を行った。そのことについて、最終確認を行った。

【意見】

- 最終報告書の案は了解しますが、組織の育成については、「住民側の応援団」がないとうまくいかないというのがこの会の共通意識だと思っている。地域住民が公共交通の維持を自発的にやれるような組織を育成するというのが必要だと思う。16年度にいろんなかたちで、こういう協議会とかいままでのいろんなものを発展させていくことが大事と思う。住民の意見を聞くのは形式的には議会もあるし、自治会の組織とかいろいろある。私は実際に巡回バスを実現する会を立ち上げてもうじき4年半になるのですが、当初今のような自治会とかシニアクラブとか各種ボランティア団体とか、いろいろなどころ全部含めて地域の要求があるんだということで行政に要請したい（と考えて）、そういうかたちで運動をはじめたが、実際には続けていくと、当時は市長が（巡回バスに対して）反対の意見が強かった。市長がだめだという

ものには助成金をもらっている団体としてはやれないといわれた。それで個別には賛同して頂いても（団体として参加することは）、非常に難しい。そういう組織を作って育てていくのは非常に難しい。一つテーマを限ってやる住民組織を、発展させていくのが大事だ。今度行政側が本当に前向きにやろうという意向で報告書ができていますから、本当にやって育てていこうと思うと、今のこういった各団体その他全部網羅した住民組織、応援団がいるのではないかという気がします。そんなつもりで意見を申し上げます。報告書は同意しますが、そういうことだと意見を申し上げます。

- 報告書でいう組織の育成という部分について、本質的には、行政も議会も市民もみんなですり育てていくことだと思います。市民のご理解と公共交通の利用、組織については行政主導で組織を立ち上げて意図的にやるのではなくて、市民の方から自発的なものがあれば、当然訴えて説明する。行政側の側面的な支援とか、行政側も守り育てていく視点で一致すれば、これから広い展開に望みがつながるような気がします。
- おっしゃるとおり、これからどうやって市民の方とスクラムを組んでいけるか。いままでそういうものがなくて、初めてこういうかたちでやって、今後どう進めていくかまだ手探りのところもある。組織の育成に関しては、こういう「場」をいくつかつくっていただくということじゃないかなと思う。報告書には検討組織の設置や予算措置など、というふうに「など」と言う言葉をここへ入れさせていただいた。市民のかたが、責任をもって継続的にもっとちゃんとやらないといけない時代にきている。行政もやるのは当たり前ですが、市民の方も自分の町をよくするという意識をどうやってもっていただくかということも含めてこれから検討していかなきゃいけないという気がします。
- 交通問題とは関係ありませんが、市民組織とか市民団体とか、といった話が出てきましたが、現在自治会という組織がありますが、今私は、将来自治会組織はどんどん弱体化していくと思っている。どういうことかという、いろんな市民団体が、自分たちで勝手に作って、自分たちの意見を自治会に押しつけている。市民団体の人たちは、あることについては大変なベテラン。自治会長、町内会長は1，2年でその役を変わり、素人。そういう人たちに仕事を押し付けるような組織が多く市の中にできている。今の市長は市民の声を聞く、というスタンスで、会議のやり方も変わってきている。また、市役所はだれが言ってこようが、地元のどういう人間かどうかもわからずに、どんどん要望を聞いて質問に答えている。そして、自治会は何もやらない、そういう発言で市役所の職員を責める。市としては自治会をどういうふうに育成していくか考え方も何もないから、市民の言うことをだれが言っても、金儲けで言うてくるのも、受け入れてしまう。組織づけられている自治

会と連携をとって、市役所も相談を受けたときの采配の仕方を各部門統一して、市役所としてどうあるべきか整理しないと、自治会組織がばらばらになっていく気がします。また現在、認知された団体が70くらいあるけれど、この指導を市役所はしていないし、新しい市民組織との話し合いももっと本腰入れて行ってほしいし、自治会との兼ね合いはどうしていったらいいかなども含め、市役所の中で統一したものを作らないといけないと思う。市民の意見を聞けばいいというだけでは、だめだ。今ある組織を生かすことも考えるべきだと思う。

- 行政としても、スタンスを明確にするため、市民部を設けました。
- 付け加えると、組織をつくったら組織を育成していくことができる人がいないといけない。また、会をつくるのはいいけど、個人の意見を言っているだけで、評論家が沢山できている。
- 今後さらに、自治会との連携、どうかかわりあっていくか研究をしなければならぬと思います。
- 各団体の会議の内容や進め方のレベルに、ばらつきがある。市役所の中でもばらつきがある。だから市役所が音頭取るなり話し合いをしながら育てていかなければいけないと思う。市民の意見を聞くのはいいが、こういう会議もものすごく時間がかかって、長くなっている。民主主義とは時間がかかるのかもしれませんが。
- 情報は公開し共有し、また意見をいただく。これからの時代はこうだと思う。
- 各種の会をつくれればいいというものではない。行政は既存の組織を利用するときは一生懸命だけれど、その後のことも考えてほしい。
- そういふことのないようにがんばりますので。お願いします。

(5) 市長への報告書提出

(谷口市長)

ただいま、会長さんから報告書をいただきました。ほんとうに、長期間にわたり、ご協議いただきまして、ありがとうございました。委員の皆さんには、「中味の濃い議論を熱心にしていただいた」と伺っております。平成16年度からは、この報告書に基づきまして、さらに事業を進めてまいる所存でございます。本日はその具体的な事業に結び付けていくための第一歩であり、これから解決していかなければならない課題も多くあるでしょうが、皆さんのご意見を尊重し、本市の新たな交通手段の確保に向けて、最大限の努力をしていかなければならないと思っております。

どうか委員の皆さま方には、新たな交通手段の実現に向けて、今後もぜひ、力強

い応援団として引き続きご協力をお願い申し上げますとともに、これまでのご苦勞いただきましたことに対しまして、心からお礼を申しあげ、私のお礼のごあいさつとさせていただきます。ほんとうにありがとうございました。

(加藤会長)

市長さん、ありがとうございました。では、市長さんにはこの後、時間の許す限りこの協議会に同席願ひ、協議会の各委員から意見や要望があればお聞き願ひたいと存じます。では、折角の機会でございますので、市長さんに対し、ご意見やご要望があれば遠慮なくご発言を頂きたいと存じます。

【意見】

- 市長さん大変ご就任以来、住民の意見を十分お聞きになって、市政に十分反映するんだと、そういう方針でずっとすすめていただいて、私ども実際にご存知のように4年半前に何とか巡回バスを実現しようと、いろんな方たちと一緒に運動を立ち上げて、署名を提出し、市長に要望した経過がある。やっと市長さんの新しい方針に従って、こういう協議会で非常に前向きに皆さんと一緒に議論ができて、今日報告書にまとめられたような方向性が見つけられたことを非常に良かったと思っています。ただ率直な意見としては、愛知県下の他市町村と比べて非常に出足が遅いので、なんとか早急に実証実験でも何でも、とにかく動き出してほしい。議論中でも何度も出たのですが、はじめからベストな公共交通なんて望みようもない。だから実際走らせてみて少しずつ改善して、よりベターなものにしていく努力を行政も市民も一緒になってやっていくことだと思いますので、一日も早く実現をするようお願いしたいと思います。
- 市長から、「みなが応援団になっていいものを作り上げていく」というお言葉がございまして、もっともだと思っております。応援団ということに関して、地域の人々がこんなにもいいものができるということ、78,000人の市民が認識をすることが非常に大事です。先ほどの時間のときに、自治会は非常に憂える状態にあるというお話がございましたが、自治会は非常に大事な組織だと思います。ところが地域のことをよく知らないで役が回ってきたかたが、町内会長をされたりして、非常に問題があるわけです。それを愁いておられるというところも分かりますが、一人一人の住民がいかにかいい市になるかを考える、そういうシステムを作り上げるという仕掛け作りを市役所のほうががんばっていただければありがたいなと思います。

(谷口市長)

広報などを通じてPR活動に努めていかなければならないと思います。皆様今後とも色々ご協力をお願いします。

(6) 平成16年度に向けて

事務局より、平成16年度に向けての説明。

- ① 具体的なことを話す懇話会のような新たな組織を設置していきたい。
基本的には皆様にご参加いただきたい。各団体の代表として出席されているかたも、新たに代表となられる方にも両方に出ていただきたい。
- ② 市議会に報告書を提出し、市議会に認識していただく。そして、来年度の新たに設置する懇話会の新年度予算を認めていただき、1歩を踏み出せるようにしたい。そうした中で、懇話会で具体的な試験運行の考えがまとまれば、それを市議会に提出する。これから作る案がもし議会でも認められれば、年度途中でも、補正予算を出してでも試験運行に向けての決意をだします。

●顧問よりこれまでのまとめ●

ここまでは大体合意できることが多いと思います。これからが正念場です。どこから初めてどう運行計画を作るのか。どう評価するのか。市民へPRするのか。言葉はやさしいですけど、大変な問題を抱えています。これから進んでいくのに人とお金、両方が必要です。あまりお金をかけずにいいものを作るといのが、後発部隊のいいところなので、学びながら、整理しながら、具体的に地道な話をしていかなければならない。例えばバス停とかどこに集まる場所を作るのかということだって大変なことになります。具体的にものを運べば運ぶ分だけ周りの人の声を聞かなければいけないわけですから、実働部隊を作って、実際に進めていくというのが一番の問題だと思います。ですから、懇話会を作ってくださいと話が出たので、どういう方がメンバーになるか分かりませんが、メンバー一人ひとりが実際動きながら役割分担を決めて作り上げるという作業をこれからしていかないと実際には動けない。私は実際にそういうことに参加したいタイプのほうですので、これからもいろいろ一緒にがんばっていきたいと思います。これから皆さんにもがんばっていただきたいと思います。

(企画部長)

長時間にわたる協議会でしたが、会長さん副会長さんそして顧問の先生また各委員の皆様大変ご支援ご協力を頂きまして進めてまいることができました。これまで役所ではこうした会議の進め方がはじめてでご心配をおかけしましたが、こうしたことを元にさらに研究いたしまして、市の発展につなげられるような取組をしていきたいと考えております。どうもありがとうございました。

(加藤会長)

以上をもちまして交通問題対策協議会を終了させていただきます。各委員の皆さんには長い間本当にありがとうございました。